

第1回 泉佐野市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和7年2月12日（水）午後2時00分

2. 場 所 泉佐野市役所5階 第一会議室

3. 出席者

構 成 員	市 長	千代松 大耕
	教育長	奥 真弥
	委 員	山下 潤一郎
	委 員	中村 スザンナ
	委 員	甚野 益子
	委 員	石崎 貴朗
	委 員	谷口 朋
	委 員	形部 博紀

事務局及び関係職員

市長公室長	高橋 和也
教育部長	木下 隆
こども部長	古谷 信夫
政策推進担当理事	福井 丈司
こども貧困対策担当理事	前田 憲吾
施設担当理事	中野 康
日本遺産推進担当理事	中岡 勝
読書活動推進担当理事	大引 要一
学校給食担当理事	田中 伸宏
泉州国際マラソン担当理事	山路 功三
教育総務課長	鍵埜 和弘
教育総務課教育総務担当参事	山本 建志
教育総務課教職員担当参事	山岡 史賢
教育総務課夜間中学担当参事	本道 篤志
学校教育課長	長田 龍介
学校教育課学校指導担当参事	辻本 武司

学校教育課人権教育担当参事
青少年課長

渡辺 健吾
洞 義浩

(庶務係) 教育総務課総務係長

室 拓二

4. 議 題

(1) 小中学校における教育DXの推進について

(2) その他

5. 議事の経過

(午後2時00分開会)

鍵埜教育総務課長

定刻になりましたので、只今から令和6年度第1回泉佐野市総合教育会議を始めさせていただきます。

本日、構成員の皆様におかれましては、全員ご出席いただいております。会議が成立していることをご報告いたします。

また会議に先立ちまして、傍聴につきましては、申込者がありませんでしたので、こちらも報告させていただきます。

それでは、開会にあたり、千代松市長からご挨拶をお願いします。

千代松市長

令和6年度第1回泉佐野市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、教育委員の皆様方におかれましては、ご多忙の中、本会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、平素より、教育委員の皆様と教育委員会が一体となって、さまざまな課題に対して挑戦し、教育改革を行っていただいております。今年度4月から佐野中学校での夜間学級の開設や、オーガニック給食の導入、昨年に引き続き小中学校における学校図書館システムの導入といったモデルとなる取り組みを進めていただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

本会議は、皆様ご承知のとおり、教育委員会と首長が地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としたものでございます。

さて、今回の総合教育会議のテーマは、「小中学校における教育 DX の推進について」でございます。

Society 5.0 が提唱される現代において、教育分野においても ICT 機器の利活用は不可欠です。教育 DX は、子どもたちの未来を拓く上で非常に重要な実践であり、ICT を活用することで、子どもたちは多様な情報に触れ、自ら学び、創造性を発揮できる環境を手に入れることができます。また、教職員の働き方改革にもつながり、より質の高い教育を提供できる体制を構築できるものでありま

す。

本市の教育 DX 実現に向けては、校務の効率化・高度化を進める「校務 DX」と、子どもたち一人ひとりに最適な学びを提供する「学習 DX」、この両面から教育 DX を推進してまいります。

その実現に向けて、今後、「端末の整備」「ネットワーク環境の構築」「教員の ICT 活用能力の向上」「コンテンツの充実」「セキュリティ対策」「運用体制の構築」等を計画的かつ継続的に進めてまいりますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます

最後に、本日の総合教育会議を通じまして、教育委員の皆様には、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

鍵埜教育総務課長

ありがとうございました。

それでは協議事項に入らせていただきます。

次第に従いまして、進めさせていただきます。

2 協議事項（１）「小中学校における教育 DX の推進について」でございますが、渡辺学校教育課人権教育担当参事より説明をお願いします。

渡辺学校教育課人権教育担当参事

私からは「小中学校における教育 DX の推進について」ご説明させていただきたいと思います。

これからの社会について話す上で、最近よく見聞きするのは「Society 5.0」という言葉です。こちらは平成 28 年 1 月に策定された「第 5 期科学技術基本計画」の中で提唱されている、日本が将来目指すべきとされる社会モデルとなっております。名前についている 5.0 は、Society 1.0 から 2.0、3.0、4.0 と続いていることを表しております。Society 1.0 は狩猟社会、2.0 は農耕社会、3.0 は工業社会、4.0 は情報社会を表し、その上に 5.0 が存在することとなります。

Society 5.0 は四度目の産業改革がもたらす五つ目の社会と言われており、創造社会や超スマート社会とも表現されております。

平成 30 年の「Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇親会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース」において、Society 5.0 において求められる人物像、あるいは学びのあり方が示されています。共通して求められる力として「自己の主体性を軸にした学びに向かう一人一人の能力や人間性が問われることになる」と明記されております。

また、新たな時代に向けて取り組むべき政策の方向性についても、「次世代の子供たちが未来を生き抜く力を身に付けることができるように必要な環境を整えることは、我々大人世代の責務である」、「Society 5.0 の姿をしっかりと見据えつつ、決して浮き足立つことなく着実に新学習指導要領の理念を実現することが求められている」と明記されております。

続いて、学習指導要領をご覧ください。「学習の基盤となる資質・能力」という項目があります。従来の学習指導要領においても、学習の基盤となる資質・能力として「言語能力」と「問題発見・解決能力」は位置付けられておりましたが、平成 29 年に告示された学習指導要領において、新たに「情報活用能力」が明記されました。「言語能力」や「問題発見・解決能力」と同様に「情報活用能力」も学習の基盤となる資質・能力と位置付けられております。

さらに、文部科学省より学習指導要領のポイントとして、情報活用能力を、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けていること、学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実に配慮することが別途示されております。

この学習指導要領の改訂を受け、令和元年度には文部科学省より「GIGAスクール構想」が示され、実現に向けた政策がスタートしました。

本市におきましても、GIGA スクール構想の実現に向けて進めていくこととなり、初めに、どのような端末が学校に最適なのか、教育委員会の中で検討いたしました。Microsoft の WindowsOS や Google の ChromeOS、Apple の iPadOS の内、どの OS・端末を採用すべきか研究を重ねました。

本市では、この中から ChromeOS を搭載した Chromebook を採用いたしました。Chromebook を採用した理由は多くありますが、Chromebook が強みとして示している 5 つの「S」のうち、スピード (Speed)、起動時間がとても速いことが特に大きな理由です。Chromebook 導入以前にパソコン室等で使用していたパソコンは、起動のスイッチを押してもうまく起動しなかったり、起動に時間がかかったりといった問題がありました。1 人 1 台端末の導入においては、端末を充電保管庫等から子ども達の手元に持っていき、起動するまでに時間がかかってしまうと、授業等で使用するまでに時間のロスが生じてしまいますので、起動のスピード感が必要であると考えました。5 つの「S」からはもう 1 点、大きな理由としてシェアブル (Shareable) があります。Chromebook を持っている全員で、取り組んでいる内容の共有ができるという強みも、この Chromebook にはありました。次に Chromebook の強みとして堅牢性があります。導入からこれまでの間、私自身も学校を訪問し、子ども達が Chromebook を使っている様子の確認を行っております。子ども達は Chromebook を大切に扱っておりますが、故意ではなく、誤って床に落としてしまう場面があります。しかし、特に故障することなく、引き続き問題なく使用できておりますので、堅牢性は非常に高いと考えております。また、年度替わりの更新作業がとてもスムーズに行えるという強みがあり、こちらも大きな理由です。以上の理由で、最終的に Chromebook を採用いたしました。

令和 2 年度に Chromebook を配備しましたが、購入して学校へ配備する前の 7 月に Google for Education をお願いして、Chromebook を 160 台借り入れました。試用期間を設けて、市内各校へ 3 台ずつと ICT 教育推進校である第三小学校に 110 台を配備し、活用を進めました。借り入れた Chromebook を返却するにあたって第三小学校から回収した際、メモが挟まっておりました。子どもが一生懸命に「クルムパスワード」と、Chromebook のパスワードをメモしており、熱心に使ってくれたことがわかり、大変嬉しい思いになりました。その後、令和 2 年 10 月に ICT 活用推進プロジェクトチームを立ち上げ、有志の先生方に集まっていただき、1 人 1 台端末の有効的な活用について研究を進めてきております。こちらのプロジェクトチームは毎年度、教員の中から部員を募集し、サークルのような形で研究を進めております。

令和 2 年 11 月から令和 3 年 2 月にかけて全校に Chromebook と校内高速ネットワーク環境の配備を完了いたしました。

本市では、GIGA スクール構想を実現するにあたって、「泉佐野市 GIGA スクール構想」というプランを計画しております。これまでの教育実践の蓄積に ICT をかけ合わせることによって、より一層の学習活動の充実と授業の改善を図っていくことができると見込んで、計画を立てております。

大きく 4 つのカテゴリーに分けて、1 つ目は「ICT を活用するための端末管理・運用」、2 つ目は

「ICT を活用した児童生徒の資質・能力の育成」、3つ目は「教職員のICT活用指導力の育成」、4つ目は「ICT推進体制の整備」となり、これら4つのカテゴリーに則って、令和2年度から泉佐野市GIGAスクール構想の実現に向けて取り組んできました。

スライド13が実際の、実現に向けたロードマップになります。

先程申し上げた4つのカテゴリーに分けて、詳細の説明をさせていただきます。

まず「ICT を活用するための端末管理・運用」につきまして、本市では、年度初めと年度終わりの時期に、端末を次年度にスムーズに使用するための作業をしております。特に年度終わりでの作業につきましては、卒業生のデータやクラスルームのアーカイブ化を、Chromebook の整理等も含めて「GIGA 納め」と命名し、2～3月に市内一斉で作業を行っております。4月に入ればアカウントの作成や新しいクラスルームの作成等、こちらも「GIGA 開き」と命名し、市内一斉で作業を進め、スムーズに子ども達が活用できるように取り組んでいるところです。これらの年度更新作業を非常にスムーズに行うことができるため、Chromebook を採用して良かったと感じております。

次に「ICT を活用した児童生徒の資質・能力の育成」につきまして、学校だけではなく、家庭での活用や、教育委員会主催のプログラムによる育成を進めております。先日、庁舎見学に小学3年生が来た際、ある児童がGIGA 端末を持参して、庁内の写真を撮影したり、端末にメモを入力したりといった活用をしておりました。このように児童が様々な場面で端末を活用している様子が見られるようになってきております。教育委員会主催のプログラムについて、スライドには「ジュニアICTリーダー（JIL）プログラム」と記載しております。本市は「Google for Education パートナー自治体プログラム」に参画しており、大阪府内で参画している市町村は本市だけとなっております。小学校5年生以上の児童生徒から希望者を募って、Google の講師に Chromebook の活用等の研修を実施していただく等、Google の協力のもとジュニアICTリーダーの育成を図っているところであります。また、今年度は小学校3、4年生とその保護者を対象に、Chromebook 親子体験会も実施いたしました。

続いて、「教職員のICT活用指導力の育成」につきまして、本市では他の自治体に引けを取らない、数多くの研修を学校の要望に応じて実施しております。こちらも Google の協力のもとで実施しております。また一番下に記載している GIGA 参観日は昨年9月に開催いたしました。ICT活用推進校である第三小学校の授業を市内の先生方に見ていただいたところです。

最後に、「ICT推進体制の整備」につきまして、本市では先程説明いたしました通り、ICT推進プロジェクトチームを立ち上げました。有志メンバーと共に、授業における効果的なICT活用や学校と家庭を繋ぐ手段としてのICT活用、教職員のネットワークづくりのためのICT活用等、研究したいテーマを自分達で決め、様々に研究を深めているところです。

本市の現状について説明いたします。本市では、当初より指標を2つ定め、泉佐野市GIGAスクール構想の実現に向けた計画を進めてきました。1つ目は、「授業におけるGIGA 端末の利用回数」です。令和6年度は週に5回、毎日使うことを目標としております。もう1つの指標は、「タブレットPCを使うと、学習がわかりやすい」という子ども達の肯定的な回答の割合です。令和6年度は96.3%を目標としております。

表示している実際のアンケート結果をご覧ください。1つ目の「毎日、学校のタブレットPCを使っている。」の項目につきまして、A学校では肯定的な回答が95%でした。しかしB学校では11%

に留まっております。泉佐野市 GIGA スクール構想が 4 年目を迎えるにあたって、学校間格差が少しずつ拡大してきていると考えております。2 つ目の「タブレット PC を使うと、学習がわかりやすい。」の項目につきましても、C 学校では肯定的な回答は 97% ですが、D 学校では 58% と、こちらについてもやはり学校間格差が表れております。アンケート結果から学校間格差や学年格差、あるいは学級間格差が、現状の課題として読み取れます。

端末の活用の推進については、端末を活用する主体がどこにあるのか、どこで学習するのか、どの教科で用いるのかといった、主体・空間・教科の 3 つの視点で、段階的にステージを上げていく必要があると考えております。普段子ども達が活用できていない学校につきましても、やはりまだ端末活用の主体が教師による一斉授業であったり、端末を活用する空間が相変わらず同じ教室の中だけであったり、端末を使用している教科が特定の教科だけであったりといった現状があります。スライド 24 の図にあるように、教師による活用から子どもによる活用へ移行し、より効果的に、より発展的に活用できるよう市全体で進めていきたいと考えております。

特に活用が進んでいる学校の特徴について、主体・空間・教科の 3 点で説明させていただきます。

まずは主体について、「一人（ひとり）で学ぶ場」が設定されています。そして「人（ひと）と学ぶ場」も必ず設定されています。いわゆる「2 つのひと学びを大切に」し、主体を子ども達にしっかりと持たせる形で進めることができております。

次に空間について、「どこで学習を行うのか」や「どんな方法で学習するのか」等、「子ども 1 人ひとりに応じた学習環境・方法の選択」がされております。スライド 26 の左上の写真は学校の廊下です。子ども達が自ら教室を出て、自分にとって学習しやすい環境を選び、そこで学習することができています。学習方法においても、GIGA 端末を使うのか、教科書やノートを使うのか、図書を使うのか等、自分で学習方法の選択ができております。そして、誰と共に学習するのかということも子ども自身が選択し、自ら自分に合った学習方法・学習環境を選択できることが特徴として挙げられます。

最後に教科について、「リアル（実社会）から学ぶ」ことができております。スライド 27 の上部にあるのは社会見学の写真です。黒板で事前に学習内容をまとめ、社会見学に行っております。下部はふるさと納税の写真です。返礼品についてプレゼンテーションを行う学習を第三小学校で進めることができました。データや教科書といった仮想の中からだけではなく、リアル、実社会からしっかりと学び、学んだことをどの教科にどのように重ねていくかといったカリキュラムとして設定できていることが特徴に挙げられます。

本市における特徴として、資質・能力の育成に向けた「学びの変容」が見られております。「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」の実現を目指しているところですが、従来の学習の特徴であった「学校で」「教員が」「同時に」「同一学年に、同じ速度、同じ内容」で教えていた状態から、「いつでも」「どこからでも」「誰とでも」「自分らしく」学べる状態へ変容し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて、進めていくことができていく学校が増えてきております。

その他に、活用が進んでいる学校の特徴として、ICT ツールの文房具化や家庭・地域への発信があります。ICT ツールを文房具のように気軽に学習に用いることができていること、保護者体験の場を作ったり、学校だより・学校ホームページに掲載したりと家庭・地域への発信をしているこ

とがみられております。

先程説明いたしましたジュニア ICT リーダープログラムの話に戻りますが、全国でジュニア ICT リーダーのプログラムを実施している自治体が多くあります。それらの自治体が一堂に会し、ジュニア ICT リーダーの交流を図るため、Google 主催による JIL サミット、ジュニア ICT リーダーサミットが昨年度と今年度を実施されております。昨年度は新池中学校 2 年生 3 人が参加し、今年度は第三小学校 6 年生の子ども達 3 人が参加しました。昨年度に渋谷の Google オフィスで開催され、今年度は東京大学で開催されました。昨年度と今年度の 2 年連続で、参加者からのベストプレゼン 1 位に本市は選ばれています。昨年度の動画をご覧ください。

【新池中学校二年生

これから、関西国際空港のある世界の玄関口、泉佐野市の紹介を始めます。

突然ですが皆さん、泉佐野市って知ってますか。

でも知らない人がたいていだと思うんですよ。

ということで、今日は泉佐野市について話している泉佐野市市民の会話をのぞき見していきたいと思います。

「なあなあ聞いて、昨日の晩御飯に『泉州水なす』食べたんよ。」

「ええ、いいなあ。『泉州水なす』って、泉佐野市で栽培されてる家屋野菜やんな。」

「そうそう。あと、泉佐野市で有名な食べ物と言えば、『泉州たまねぎ』とか『松波キャベツ』もあるよな。」

「ふうん、どれもめっちゃおいしいよな。」

「うん、野菜以外で言ったら、『ワタリガニ』も有名やな。泉佐野市で写真を撮るときの掛け声といえば『ワタリガニ〜！』やんな。」

「泉佐野市は自然が豊かで、たくさんの有名な食べ物があります。さらに海の幸も有名で、おいしいものがいっぱいいます。もし泉佐野市に行ったら、ぜひ食べてみてくださいね。」

おやおや、あちらには泉佐野市の有名スポットについて話している人がいます。ちょっと話を聞いてみましょう。

「聞いて。冬休みにな、犬鳴山に家族で行ってきてん。めっちゃ景色きれいやったんよ。」

「ええな、犬鳴山。さすが、『大阪みどりの百選』に選ばれてるだけあるな。」

「てかさ、日根荘っていうところも、日本遺産に登録されてる場所みたいやで。」

「すご。泉佐野市ってめっちゃ自然豊かやな。」

「でもでも、近未来的なところもあって、泉佐野市で買い物をする場所といえば〜。」

『りんくうアウトレット』！」

「そうそう。めっちゃいろんなお店が揃ってるよな。これ西日本最大のアウトレットみたいやで。」

「ええ、すご！」

「そのアウトレットの隣にあるのがおっきい観覧車と、SiS りんくうと。」

「そうそう。観覧車からの景色めっちゃきれいやし、SiS りんくうタワーは日本で 5 番目の高さらしいわ。」

「ええ、すごいなあ。やっぱり泉佐野市は、めっちゃちょうどいい、『とかいなか』やな。」

泉佐野市は豊かな自然と便利な都会が合わさった、とても良い街なんです。

最後は、お祭りについて話している人達がいいますよ。ちょっと話を盗み聞きしてみましょう。

「なあ、私最近泉佐野市に引っ越してきたんやけど、泉佐野市って何か有名なお祭りとかあるん？」

「そうやなあ。『だんじり』とか有名やで。いろんな楽器を演奏しながら『そーりゃ』っていう掛け声と共に走るお祭りやで。」

「へえ、そうなんや。一回やってみてよ。」

「ええわ。よう見ときや。『そーりゃ！そーりゃ！』」

「わあ、すごー！」

「あとは『ゑえじゃないか祭り』があるで。この祭りは、大阪最大のよさこい祭りで、全国から5,000人もの踊り子さんたちが来るんやで。」

「へえ。どっちもめっちゃ楽しそうやなあ。今度一緒に行こう。」

「ええよ。」

泉佐野市では伝統的な祭りがたくさんあります。

これで超魅力的な町、泉佐野市の紹介を終わります。

おおきに～。

GIL サミット運営

泉佐野市の皆さん、ありがとうございました。

私達も年間で何百回と研修を実施しますが、ここまでのことをできるかちょっと自信ないくらいにすごく良い発表でしたね。

流石中学生の発表だったなと思います。授業の中でも言いましたが、物は盗んじゃ駄目ですけど、人の良いところはどんどん盗んで良いです。これまでの発表で、今の自分にはできないけれどすごく良い発表だったな、良いスライドだったなと思うところはどんどん盗む気持ちで聞いてください。

また関西弁、自分の地元の言葉で喋ってくれたことも、いろんな町が、今日一緒にいるんだということがわかって、すごく良かったと思います。

きちんと、自分たちのプレゼンテーションに合わせたスライドの構成をしていて、スライド送りまですごくよかったと思いますし、流石な発表でした。ありがとうございました。】

渡辺学校教育課人権教育担当参事

発表も良かったですが、発表に至るまでの、教師の関わりや、子ども達の共同作業が良かったと考えております。自分が作業を進めたいタイミングで作成し、出来上がったものを持ち寄り、次に集まった時には出来上がっているものを、よりブラッシュアップしていくといった、端末を用いた製作のシステムがしっかりと出来上がっていることと、子ども達自身が主体になって、この発表を作り上げていったということが、同行させてもらった私自身、とても勉強になった部分でした。これは昨年度の新池中学校も、今年度の第三小学校も同様に良かった部分であったかと思います。

続いて、「教育DX推進に向けて」ということについて説明いたします。こちらは校園長会で提示させていただいた図になりますが、アナログからデジタル情報への部分的置換である Digitization か

ら、関係するプロセス全般をデジタル化する Digitalization、結果として社会全体への影響を生み出す Digital Transformation (DX) へと進めていくことを示しています。この中に校務支援システムや Google for Education、学習データの標準化と蓄積が含まれており、学校にある端末や I C T 技術を活用して教育 D X を推進していくことを表しています。校園長会では、デジタルトランスフォーメーションに向けて、知識を向上させていきたいと思いますということをお伝えしております。

今後目指していく「泉佐野×教育 D X 推進ビジョン」につきまして、これまでも目指す「子どもの姿」は示しておりましたが、今後は目指す「教職員の姿」についても示していきます。すべての教職員が子どもに丁寧に寄り添い、I C T の活用を通して主体的な学びに伴走するとともに、教育 D X の実現による事務効率化と学校文化の改革を通して、健康で心豊かな生活の中で自らも生き生きと学び続ける姿を目指して、今後も進めていきたいと考えております。

その姿の実現に向けて、6つの道筋を計画しております。

1つ目は、「デジタルならではの強みを生かした学習活動の充実」として、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をしっかりと推進していきたいと考えております。

2つ目は、「デジタル社会のよき創り手の育成」として、子どもがデジタル技術を正しく効果的に活用しながら社会に参画しようとする姿勢や必要な能力を育成するデジタル・シティズンシップ教育を踏まえて、取り組みを推進していきたいと考えております。

3つ目は、「誰一人とり残さない、個に応じた指導・支援の充実」として、多様な、全ての子ども達それぞれに応じた指導・支援を充実させていきたいと考えております。例えば障がいのある子や不登校の子、外国にルーツのある日本語指導が必要な子等に対しても、I C T を使いながら、効果的に進めていきたいと考えております。

4つ目は、「教育データの利活用」として、これまで蓄積してきたビッグデータをどのように活用していくのかということも今後研究を進めていきたいと考えております。

5つ目は、「校務のデジタル化による働き方改革の推進、学校文化の変革」として、保護者と学校のやり取りの見直しをしていきたいと考えております。例えば学校への欠席連絡を電話でいただいたり、連絡帳で学校とのやり取りをしていただいたり等がありますが、今後はフォームに入力し、データを送信していただくことによって学校への連絡が行えるように、あるいは学校から家庭に対する手紙の配布を紙ではなくデータでの配信へ変更していくことを進めていきたいと考えております。

6つ目は「安心で快適な I C T 環境及びサポート体制の整備」として、校務用端末と学習用端末の双方で、それぞれフルクラウド化を目指して研究を進めていきたいと考えております。また、支援人材として本市に配置していただいております I C T 活用教育推進アドバイザーや教育 D X 支援員が学校を巡回しながら、教育 D X を進めていきたいと考えております。

今後も教育 D X を推進していく上で、以上のビジョンを持って、進めていきたいと考えております。

スライド35にある表の一番下に記載のある通り、セカンド GIGA への移行が令和8年に迫っております。端末の入れ替え等も予定しておりますので、スムーズに移行していくことができるようにすることと、子どもの情報活用能力をしっかりと高めていくということで、士気を挙げて取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上となります。ありがとうございました。

鍵埜教育総務課長

ありがとうございました。

渡辺参事の方から説明のあった内容につきまして、私の方からも簡単にではございますが説明をさせていただきます。

近々ではございますが、先程の説明にもございました通り、来年度には1人1台端末の更新を予定しておりまして、予算要求をさせていただいております。

併せて学校のネットワーク環境につきましても、来年度に整備する予定としております。

さらに校務支援システムにつきまして、もちろん現在もシステム導入をしており教員の皆様にご活用いただいておりますが、より利便性が高まる形となるように端末も含めてシステム環境を改善していくこと、併せて校務支援システムのクラウド化に向けてどのように進めていくかということ、今後さらに研究・検討を進めて参りたいと考えております。

今回、こちらの「小中学校における教育DXの推進について」というテーマを設定させていただき、ご出席いただいた皆様にこれまでの経過について改めてご確認いただくとともに、私どもが現在考えている今後の進め方について説明させていただきました。

市長をはじめ構成員の皆様におかれましては、何かご意見ご質問等がございましたら頂戴できればと存じますので、よろしくお願いいたします。

山下委員

一般的に、この教育DXのような事業についての問題点として、インフラ整備の負担が非常に大きいことがあります。もう一点としては、教師の知識や経験の不足があると思います。令和7年2月の定例教育委員会議で、1人1台端末の更新についてはかなりの予算を要求すると説明がありましたが、既に予算は決定しているのでしょうか。

鍵埜教育総務課長

現在、議会上程に向けて財政部局に予算要求をしております。3月定例市議会にて予算案として上程される予定となっております。

山下委員

かなりの金額が予算として要求されていまして、泉佐野市の子ども達は恵まれていると個人的に感じた次第でございます。

令和7年度の端末更新には費用が掛かり、5年経過後にはまた端末更新で同様の費用がかかるかと思っております。端末更新以外にもその他様々な更新が必要になる等、相応の費用について市として負担いただくかと思いますが、よろしくお願いします。

もう1点、先程渡辺参事の方から説明がありましたが、折角それだけの費用をかけて整備しているにもかかわらず活用状況において学校間で格差があるということにつきまして、例えば、教員の知識・経験が不足していること、または、従来の読み書きそろばん等の手で書く方法が良いと考え

ている教員が多くいらっしゃる等があると思いますが、根本的な原因は何でしょうか。

やはり授業でICTを活用すればするほど、子ども達にもICTに関する知識が身につくと考えられますし、ICTが不可欠な時代になりつつありますので、学校間格差を拡大しない方が良く考えております。

鍵埜教育総務課長

では、まず通信インフラの整備と端末の更新費用につきまして、先程申し上げたことと重なる部分もございますが、説明いたします。

通信インフラの整備につきましては、第1期GIGAスクール構想を導入した当初に、各学校へWi-Fiアクセスポイントの配置や教育ネットワークの構築等、一定の整備はさせていただいております。しかし、導入から現在までの間に学校現場で活用可能な範囲が広がっておりますが、それに対して通信量が不足しつつありますので、今後は多種多様な活用ができるように更新や拡充をしていくことが必要になると考えております。12月市議会で補正予算をご承認いただき、通信の速度帯域がどれくらい出ているか、どの程度今後の使用に耐えうるかの調査を今まさに実施しております。今回の調査で課題が発見された場合、令和7年度中に解消を図る対応をしまいたいと考えております。

端末の更新費用につきましては、財政部局への要望は完了しており、予算案として3月定例市議会にはかることになっております。市議会で予算の承認を受けることができれば、来年度に端末の入れ替えを行うこととなります。入れ替え時期につきましては、来年度末頃を予定しております。こちらの時期が設定された理由につきましては、令和8年2月末が現在使用しているGIGA端末の保証期限になりますので、保証期限に併せる形で入れ替えを行うこととしております。

渡辺学校教育課人権教育担当参事

山下委員がおっしゃった通り、学校間格差が拡大している根本的な原因は、やはり最終的には教職員の考え方であると考えております。これまで自分達が指導してきた経験等を信じてやまない、これまでのやり方でうまくいっていたのでやり方を変える必要はないと考えている教員も少なからずいると感じております。しかし子ども達を「多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手」として育成する視点が学習指導要領の内容に明記されておりますので、そちらに則って、教職員が変化しなければならないと考えております。

そのために今年度はGIGA参観日を実施しました。ICT教育を推進している学校での授業の様子や、子ども達の実際の姿を見ていただきました。また令和7年度につきましては、スライド13に掲載している「Izumisano City GIGAスクール構想」の実現ロードマップに記載のある通り、ICT推進体制の整備として校内ICT研修を位置付けております。これまでは希望した教職員を集める形で研修を実施しておりましたが、今後は学校現場に入り込んで、全ての教職員に同じ研修を受講していただくことが必要であると考えております。変化が必要な学校には研修を実施し、教職員の考え方に変化を促したいと考えております。

鍵埜教育総務課長

他にございませんか。

中村委員

本題から離れてしまうかもしれませんが、スライド29にて、活用が進んでいる学校の特徴として、家庭・地域への発信があるとご説明いただいたことについて思ったことがあります。

私のように泉佐野市の小・中学校を卒業していない保護者にとって、子どもが小学生の時はよく校歌を歌ってくれるので、何となく親も校歌を歌えるようになりますが、中学生になるとやはり思春期に入って校歌を歌ってくれなくなりますので、校歌をよく知らないままになってしまいます。著作権の問題もあるかとは思いますが、学校のホームページに校歌を載せることはできませんか。子ども達が卒業してからも、自分たちの学校はどんな校歌であったか振り返ることができるように、卒業生もアクセスできるようにしていただきたいと思います。また、定例の教育委員会議で何度かお話をさせていただいたことになりますが、学校のホームページは泉佐野市の学校への転入が決まっているご家庭にとって最初に学校の情報を知る窓口になるかと思っていますので、もっと内容を充実させていただきたいと思います。学校のホームページを作成しているシステムは、子ども達の持っているChromebookではなく、校長先生や教頭先生が使用されているソフトになるかと思いますが、校長先生や教頭先生が交代される度に、意識や熱意の差がホームページに表れやすいかと思っています。

そのあたりについて、渡辺参事はどう思われていますでしょうか。他の方でも、ご意見いただきたいと思っています。

渡辺学校教育課人権教育担当参事

ありがとうございます。やはり学校からの発信については、常日頃より教育委員会から各学校の管理職に指導しております。このあたりも学校間格差が表れている部分があるかと思っていますので、ホームページ等もうまく使いながら、家庭・地域への発信を充実させていきたいと思っております。

奥教育長

私の視点では、各学校のホームページは以前に比べるとかなり充実してきたと感じております。学校のホームページを作成するシステムは市のホームページと同じものを用いていますよね。

渡辺学校教育課人権教育担当参事

市と同じシステムで作成しています。

奥教育長

各学校でシステムが異なることはなく、市から作成方法を提示し、そちらに則ってホームページを作成してくれています。ただ、ホームページでどんどん情報を発信できているのか、発信しようとしているけれど様々な事情でできていないのか、現状は学校それぞれですが、以前に比べると、日々の情報をかなり掲載するようになりました。また学校によっては、インスタグラムを使って発信している学校もあり、より一層家庭・地域へ届きやすいような環境を作っていつてくれているこ

とは間違いありませんが、まだ十分ではないと思います。中村委員がおっしゃってくれたような、ホームページに校歌やその音楽を掲載することは可能でしょうか。

渡辺学校教育課人権教育担当参事

可能かと思います。

奥教育長

校歌の掲載も学校からの発信を充実させていく一つの案ですね。

中村委員

可能とのことで、よかったです。

鍵埜教育総務課長

他にございませんか。

石崎委員

学校間の格差についてお聞かせいただきましたが、教職員間の格差はあるのでしょうか。例えば学年に4クラスあれば、2クラスの教員はICTを活用しているが、残り2クラスの教員は活用していない等、そのようなことが現状としてあるのか、お聞かせいただきたいと思います。

渡辺学校教育課人権教育担当参事

おっしゃる通り、教職員間の格差はございます。学年の主軸になる先生が、周りを引っ張っていくことができれば良いですが、現状はそうではありません。キャリアが長かったり、年配であったりする教員はICTを敬遠されるくらいがありますので、そのあたりは要望に応じて支援人材が学校現場に入って、支援人材と教員と一緒にICTを実際に使ってみる等の取り組みを進めていきたいと思っております。

奥教育長

第三小学校でかなりICT教育を推進してくれていた元校長の林先生が、現在学校教育課のICT活用教育推進アドバイザーとして各学校を回ってくれています。渡辺参事の説明にもありましたが、令和6年度から教育DXも推進していくということで、教育DX支援員も派遣する等、学校のニーズに応えることができるように、教育委員会として様々な形でのサポートをしている現状になります。

石崎委員

ありがとうございました。

鍵埜教育総務課長

他にございませんか。

甚野委員

ICTを活用することについて、GIGA端末はコンパクトで優秀だし、それ1台あれば様々な情報が手に入れられるので便利かと思いますが、その反面、私は体と健康のことがすごく気になっておりまして、例えばICTを活用して、同じ画面を見続けて目を酷使することによって視力が低下してしまう子ども達が増えていないか心配しております。そちらはどうでしょうか。

渡辺学校教育課人権教育担当参事

ありがとうございます。実際にデータを集計しておりませんので視力の低下についての詳細はわかりませんが、端末を家庭に持ち帰ったときの使い方等については、保健室から発行している保健だよりや、学校からお知らせしている家庭でのルール作りを活用している学校は多いかと思います。

以前、1人1台端末を導入したことによって子ども達の筆圧が低下してきたという話も出てきたかと思いますが、そのような側面もあるかと思いますが、鉛筆か端末のどちらかを0か100かのように極端な使い方をするのではなく、鉛筆も端末も、子ども一人ひとりに合った方法を選択することができる形で進めていきたいと考えております。

奥教育長

甚野委員が先程おっしゃったことも、渡辺参事の回答もそうですが、目に対する影響を非常に心配しているのは我々も一緒です。全国学力・学習状況調査のアンケートの結果を見ても、目を学習で使う時間よりも、ゲーム等で酷使する時間の方が非常に長いという結果が出ております。目を学習でも使ってくれた方が嬉しいですが、甚野委員がおっしゃる通り、視力低下に繋がらないような配慮については、また保健指導の方で進めていかなければならないと思っています。

甚野委員

よろしくをお願いします。

鍵埜教育総務課長

他にございませんか。

谷口委員

これからの社会と求められる力について、工業社会があって、情報社会があって、今の21世紀前半に続いています。既に物質的なものは豊かになっています。様々なものが揃っている中で、これからはどちらかというと、目に見えないものや、精神性や心のあり方がとても大事になるのではないかと感じています。

ICT活用のように、物質的なものを充実させることも重要ですが、「Izumisano×教育DX」推進ビジョンにめざす子どもの姿として示されている中に、子ども自身が「学びの主体者として」「自分らしい学びを実現する」という文言があるように、より自分自身との結びつきや、自分を信じていく力としての自信、自分が何を求めているのか、自分の命をどう輝かせて社会貢献をしていくのか等、心のあり方についても並行していかなければならないと思います。主体的に行動することは、

自分に自信がなかったり、自分を信じるができなかったりすると、うまく行動に移すことができないと思いますので、パソコン等の自分の外側に答えを求めてしまいがちですが、自分らしさとは何か見つめる、自分の中にある答えを探す、自分自身とより深く繋がっていくことができるような教育も、同時に進めていってもらえたらと思っています。

辻本学校教育課学校指導担当参事

ご意見ありがとうございます。谷口委員のおっしゃる通りであると思っております、子ども達の自分を信じる力、いわゆる自己肯定感を高めることについても同時にやっていかないとはいえないと考えております。今ここでお話させてもらったICTは、あくまで教育のツールになります。今後もマイノート等を使って、どんどん子ども達の心を育んでいきたいと考えております。

奥教育長

例えば、不登校の子ども達が、学校までは行けないけれど、自宅からアバター（分身）を使ってバーチャル空間の学校に登校して授業を受けることができるという取り組みを進めているところもあるとは聞いています。そのようなことも含めて、谷口委員がおっしゃってくれたような自己実現をしていくためのツールとして、ICTを活用していかなければならないということですね。そこは絶対に誤ってはならない点だと思います。様々な子どもが、自己実現するための大切な道具として活用できることは間違いないと思っています。

鍵埜教育総務課長

他にございませんか。

形部委員

17番のスライドにあるジュニアICTリーダープログラムについて、これは小学生も中学生も、志願すれば誰でも受講できるプログラムになっているのでしょうか。

渡辺学校教育課人権教育担当参事

昨年度に募集させていただいたところ多くの参加者がいらっしゃいましたので、今年度も同様に募集させていただきました。今年度は年2回研修を開催しています。

プレゼンテーションするにあたっては、自分の思いを十分に伝えることができないといけないというところからスタートしており、プレゼンテーションやスライドの見せ方について、人はどこから見ていくか、文字の大きさはどの程度が良いか、どの色に対してどの色を加えた方が良いか等、そういった細かい部分まで学んでいます。昨年度は本市の紹介というテーマで、今年度は学校や家庭での新たな学びとしてどのようなものがあるかというテーマでそれぞれ持ち寄って、講義を受けて、自分のプレゼンテーションをどんどんブラッシュアップしていくことを実施しました。私自身も参加させていただいておりますが、とても学びが多い会であるかと思います。

小学校5年生以上を対象にしていますので、是非ご参加いただければと思います。

中村委員

先程見せていただいたジュニア ICT リーダーサミットの動画に映っていたのは新池中学校の生徒さんでしょうか。

渡辺学校教育課人権教育担当参事

はい、去年の中学校2年生です。

中村委員

2年前だったかと思いますが、海外交流事業で同行させていただいた時の、ベトナムに第1号として派遣されたメンバーの子ですね。

渡辺学校教育課人権教育担当参事

その通りです。

中村委員

やっぱりそうですよね。その時に、ベトナムへ派遣される前に毎週開催されていた研修会や打ち合わせに Chromebook を持ってきていました。とても前向きな男の子で、ベトナムで泉佐野の紹介をする際も、熱心に取り組んだり、Chromebook を持ってこなくてもよい日も Chromebook を持ってこようとしたりするような、とても熱意のある子でした。その様子をよく覚えていたので、やはり海外派遣事業に応募してくれたような子がこのような形で、泉佐野市のことを全国に、世界に発表してくれていて、とても嬉しく思いました。

鍵埜教育総務課長

教育委員の皆様からご意見、ご質問をいただきまして、時間の方も一定過ぎております。

もしよろしければ市長からも、何かこれまでのお話を聞いていただいて感じたことがございましたら、お聞かせいただきたいと思います。

千代松市長

私が感じたことは既に教育委員の皆さんから質問していただいたかと思います。特にこれといって繰り返すことはありませんが、教職員や学校間の格差についてはやはり注意が必要かと思うので、課題解消に向けてよろしく願いいたします。

ジュニア ICT リーダープログラムについて、ジュニア ICT リーダーサミットで2年続けてベストプレゼンに選ばれたことは、凄いことですよね。凄いことなのであれば、もっとPRしてもよかったのではないのでしょうか。このことについて本日初めて聞きましたが、凄いことだと思っていなからあまりPRしようと思わなかったのではないのでしょうか。広報いずみさの等PRする機会は沢山あるので、PRすれば良かったと思います。初めて聞いたのでびっくりしました。以上です。

鍵埜教育総務課長

ありがとうございます。それでは、この議題につきましては以上で終わらせて頂きます。

続きまして、3 その他でございますが、何かございますでしょうか。

千代松市長

去年の総合教育会議では「小中学校における不登校等対策について」説明がありましたが、この一年間でどのように取り組みましたか。去年の会議から一年間かけてどのような現状になったか発表してください。

辻本学校教育課学校指導担当参事

不登校につきまして、現在は新規不登校児童生徒数を増やさないための取り組みを進めております。実際の取り組みのひとつとして、家庭の教育機能総合指導支援員を増員し、不登校に繋がらないために、教室へ行くことは難しくても、別の部屋で学習したり、子ども同士や先生と触れ合ったりできるような学校での教育の機会が得られる個別のルームを各学校で設けております。現在は18校中10校で取り組みを進めており、今後も増やしていきたいと考えております。新規不登校児童生徒数については、手元に資料がございませんので具体的な数についてはこの場でお答えできませんが、だんだん減少してきておりますので、一定の成果は出ております。

奥教育長

子ども家庭アドバイザーについても説明してください。

辻本学校教育課学校指導担当参事

子ども家庭アドバイザーにつきまして、こちらは子どもだけではなくて保護者を直接支援する方々となっております。年間で3校、各学校で、保護者の方々を集めて講演会を実施しています。参加していただいた保護者やスクールソーシャルワーカーの方々と話をし、保護者の悩みを聴いたりアドバイスをしたりと、保護者に対するアプローチによる不登校の未然防止にも努めているところでございます。

千代松市長

市議会でもかなり質問が出ておりますが、その新規不登校児童生徒数が減少しているというのは、どのくらい減少しているのでしょうか。不登校児童生徒数全体では増えているのですか。年間30日以上欠席している児童生徒数を計測する等、計測方法が複雑であったと記憶していますが。

辻本学校教育課学校指導担当参事

不登校児童生徒数につきまして、令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査では254名となっております。昨年度、令和4年度は262名でございます。

奥教育長

今年度はまだ結果が出ていませんね。

辻本学校教育課学校指導担当参事

令和6年度はまだ国から調査結果が出ておりませんが、微減となっております。

千代松市長

微減ですか。

奥教育長

状況に大きく変化はないということですね。

千代松市長

新しく実施している不登校対策の効果はあまり出ていないということですか。

奥教育長

様々なことに取り組んでおりますが、やはり家庭や子ども自身の状況によって、こちらからのアプローチがうまく届くかどうか等、判断が困難な面もあります。必要と思われる人材を増やす等、かなり力を入れて支援に取り組んでおります。

千代松市長

児童生徒数が毎年減少している中、不登校児童生徒数が微減ということは、全体に対する不登校児童生徒数の割合には変化が見られないということになります。

総合教育会議は毎年度1回しか開催していませんので、今回課題として示されたICT活用の学校間格差について、取り組みの結果は翌年度の総合教育会議で報告してください。

新しい議題について説明するのも良いですが、前年度に示された課題に対し、解決に向けてどのように取り組んでくれたのかについても必ず報告するようにしてください。

木下教育部長

協議事項の前に、報告事項として昨年度からの課題について会議次第に記載し、現状を報告するようにいたします。

山下委員

総合教育会議は毎年度1回の開催ですか。

千代松市長

毎年度1回しか開催していません。私としては何回開催しても良いとは思っています。

奥教育長

次回の総合教育会議では、今回の総合教育会議で出た課題について必ず報告してください。

鍵埜教育総務課長

協議事項の説明に入る前に、前回までの協議事項や課題事項について報告いたします。

他にございませんか。

山下委員

市議会の方はよく知りませんが、予算は大丈夫なのですか。

鍵埜教育総務課長

市議会に上程し、予算委員会等を経て本会議で議決を得ることができれば、承認されることになります。

山下委員

ありがとうございます。

鍵埜教育総務課長

他にございませんか。

皆様よろしいでしょうか。

それでは、閉会にあたり、奥教育長からご挨拶をお願いします。

奥教育長

では最後に一言私の方からもお話させていただいて、終わりたいと思います。

本日は近々の課題では大変重要なものである泉佐野市GIGAスクール構想について、様々なご意見、ご論議をいただきありがとうございました。

私も学校現場を見に行き、不登校等様々な課題ももちろんありますが、私が最も良いと感じていることは、授業の中で子ども達が元気になってきていることです。

もっと先進的に変わっている学校ももちろんあるかと思いますが、泉佐野市でもGIGAスクール構想が導入されたことによって、ICT端末を利用して、授業の中身が少しずつ変わってきていると感じます。発表の中にもありましたが、市長にも発表を見に行っていた第三小学校の児童が提案したふるさと納税の返礼品が具現化される等、子ども達が取り組んでいることが社会と繋がり、身近なことから課題の解決に向けて繋がっていくことが非常に大切であると思っています。そのような主体的・対話的で深い学びの視点が必要であり、令和に入って日本の学校教育では、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指しています。社会のため、身近な課題を解決するため、このICTをしっかりと活用して子ども達の能力をさらに高めていけるように頑張っていきたいと思っています。

さらにご指摘のあった学校間、あるいは教員間の格差について、研修や授業の取り組みといった

様々なことを教員同士で互いに見学する等、それを縮小するべく取り組みます。学校間、教員間の格差は必ずなくさなければならない大きな課題であると考えておりますので、今後も様々な施策を講じたいと思っておりますし、来年度の総合教育会議では、その格差が縮まったと報告できるようにしっかり頑張っていきたいと思っております。

セカンド GIGA が令和 8 年度から始まりますので、令和 7 年度にネットワーク環境等の整備がきちんと終了することが一番身近な目標となっております。さらには、子ども達が活発に ICT 等を活用できるように、学校の D X 化を進めるにあたっては環境を整える必要があり、クラウド化しなければなりません。あるいは教職員がより集中して指導できるために、現在学習系と校務系で端末が 2 種類に分かれておりますが、フルクラウド化に移行し、1 つの端末で両方の作業ができるようにしていくことも、非常にセカンド GIGA においては大切なことであると思っております。

課題は山積しておりますが、市長をはじめ行政の力を借りながら、子ども達の教育のために、未来をしっかり担っていただこうように頑張りたいということを、お話しさせていただきまして本日の会議を終了させていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

鍵埜教育総務課長

それでは、これもちまして令和 6 年度第 1 回総合教育会議を終了させていただきます。

本日は長時間にわたり、活発なご議論をいただき、誠にありがとうございました。

(午後 3 時 0 5 分閉会)